

ぱぴるす

秋の読書週間によせて

個人的な「読書感想文」にまつわる体験です。「灯火親しむ」という語句は、読書の秋にふさわしいと思われているせいか、小学校のお習字のお題で書かされた記憶があります。

書かされたといえば、「読書感想文」もそうです。夏休みと冬休みの課題で最後に取り掛かるのはいつも「読書感想文」と「夏休みの思い出を書いた絵」でした。

「読書」は好きでしたし、「絵」も嫌いではなかったけれど、小学生の時の感想文は、課題図書のアらすじが4分の3で、肝心の感想については「とてもおもしろかったです。」「感動しました。」の2行ぐらいという明らかに「感動していない」ことがばれればのものでしたし、「思い出の絵」にいたっては、母と室蘭の水族館にいったときの「思い出」を描いた、画用紙いっぱいの水槽の中に3センチほどのコバルトフィッシュがただ一匹じっとしているだけの手抜き作品でした。

ところが、中学生になり、(乱読ですが)読書の幅も広がり、自分の好きな本を読むようになると、「大地」(P・バック著、姉に薦められた)が面白く、「思ったとおりに感想文」を書くと、初めて国語のT先生に文章を評価していただいたのです。(決して褒められたわけではないです!)

参観日に母はT先生から「お子さんは普段はどんな本を読んでいますか?」と訊ねられたそうです。「ミステリーから時代小説、家にある本ならなんでも」と答えると、「いろんな本を読んでいるんですね。」といわれたと聞き、やっと課題図書・選定図書・推薦図書から開放されたと思いました。「感動しなければならぬ作品」ではなく「感動した作品」について書けばよいと理解できたのです。気がつけば簡単なことです。

高校に入り、親には内緒の本を含めて「書物」の世界の広さに素直に感動し、本のそばで働けたらと思いつけて、今、本のそばにいます。

図書館にはいろいろな本があります。書架を巡ると、きっとお気に入りの本に出会えると思います。もし、本について迷ったときはお近くの司書に声をかけてください。

ちなみに、「絵」は高校で美術コースを選択しましたが、卒業すると鑑賞するだけになりました。

(M Nakamura)

2011・第65回 読書週間は

10月27日(木)から

11月9日(水)まで



新着図書(一般書)

お役立ち本

- 『アジアでハローワーク』 下川 裕治/編著 ぱる出版
- 『お化け屋敷のつくり方』 平野 ユーレイ/著 アールズ出版
- 『カセットボンベ1本で、これだけ料理ができました!』 関岡 弘美/著 NHK出版
- 『Q&A公文書管理法』 岡本 信一/著 ぎょうせい
- 『ここで釣れる北海道の港全ガイド』 北海道新聞社
- 『資格取り方・選び方オールガイド 2013年版』 日本文芸社
- 『旬の野菜と魚の栄養事典』 吉田 企世子/監修 エクスナレッジ
- 『小学生はこれを読め』 北海道新聞社
- 『スポーツ吹矢入門』 林 督元/著 ビックサクセス
- 『政策リサーチ入門』 伊藤 修一郎/著 東京大学出版会
- 『旅先で自転車ガール』 リクルート北海道じゃらん
- 『だれでも作れる万華鏡』 照木 公子/著 日東書院本社
- 『特許がわかるQ&A』 大塚国際特許事務所/著 オーム社
- 『ネイチャーガイドと歩く小笠原』 実業之日本社
- 『民生委員のための地域福祉活動実践ハンドブック』 小林 雅彦/著 中央法規出版

海外文学

- 『オー・ヘンリー傑作選』 オー・ヘンリー/著 角川学芸出版
- 『紙の民』 サルバドール・ブラセンシア/著 白水社
- 『記者魂』 ブルース・ダシルヴァ/著 早川書房
- 『侍とキリスト』 ラモン・ピラロ/著 平凡社
- 『旅の冒険』 マルセル・プリヨン/著 未知谷
- 『つなみ』 パール・S.バック/文 径書房
- 『やればできるさYes, You Can.』 デイック・ホイト/著 主婦の友社

日本文学

- 『上を向いて歩こう!』 のぶみ/作 講談社
- 『癌だましい』 山内 令南/著 文芸春秋
- 『今日もごちそうさまでした』 角田 光代/著 アスペクト
- 『健康半分』 赤瀬川 原平/著 デコ
- 『紅梅』 津村 節子/著 文芸春秋
- 『寿フォーエバー』 山本 幸久/著 河出書房新社
- 『小説あります』 門井 慶喜/著 光文社
- 『象の消えた動物園』 鶴見 俊輔/著 編集工房ノア
- 『峠うどん物語』 上下巻 重松 清/著 講談社
- 『昼寝の神様』 松尾 佑一/著 角川書店
- 『ヒロシマ』 1~3巻 那須 正幹/作 ポプラ社
- 『ブラック』 山田 悠介/著 文芸社
- 『偏屈老人の銀幕茫茫』 石堂 淑朗/著 筑摩書房
- 『緑ヶ丘小学校大運動会』 森谷 明子/著 双葉社
- 『40翼ふたたび』 石田 衣良/著 講談社

歴史・時代小説

- 『跡を濁さず』 中村 彰彦/著 文芸春秋
- 『大江戸釣客伝』 上下巻 夢枕 獯/著 講談社
- 『風の浄土』 中津 文彦/著 光文社
- 『風を断つ』 池永 陽/著 講談社
- 『銭の弾もて秀吉を撃て』 指方 恭一郎/著 ダイアモンド社
- 『天網恢々』 林 望/著 光文社
- 『春疾風』 田牧 大和/著 講談社



『小樽さんぽ』
山口 智子/著
北海道新聞社

小樽のフリーペーパーkazeruの連載が書籍に。ガイドブックに載らない、小樽っ子だけが知っている魅力が盛りだくさんです。



『「保険に入ろうかな」と思ったときにまず読む本』
竹下 さくら/著
日本経済新聞出版社

タイトルのとおり、『保険に入ろうかな』と思っている方への保険入門書。熟練FPの実用的なアドバイスは参考になります。



『KIDS CYCLE』
辰巳出版

エコや節約から始まった自転車ブーム。とうとう子ども向け自転車の紹介本が出版されました。メンテナンスも掲載されているので、大切に乘るための参考にもどうぞ。



『7千・707エスール』
伊与原 新/著
角川書店

男性物理学者が大人気の文学世界に、理系女子(リケジョ)主役の一冊が登場。教授と少女の科学ミステリーをお楽しみください。

本の情報・話題の本

図書館に住む本の話

今回のテーマ：スポーツの秋SP

スポーツの秋。今話題のサッカーや野球も勿論ですが、ニュージーランドではラグビーのワールドカップが開催中です。今年は『ラグビーガールズ』（松瀬学/著・小学館）や『ジャパンのために』（向風見也/著・論創社）のような、ノンフィクション・ルポルタージュの出版がありました。ラグビーに詳しくない方にも手に取りやすく、気軽に親しむことができる良い機会です。勿論ルールの本もありますので、どうぞお問い合わせください。



予約本ランキング



『謎解きはディナーのあとで』
東川篤哉(124)

- 2 「真夏の方程式」 東野圭吾(120)
 - 3 「KAGEROU」 斉藤智裕(92)
 - 4 「麒麟の翼」 東野圭吾(82)
 - 5 「花の鎖」 湊かなえ(69)
 - * 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』
岩崎夏海(67)
 - * 「夜行観覧車」 湊かなえ(66)
 - * 「マスカレードホテル」 東野圭吾(65)
 - * 「下町ロケット」 池井戸潤(59)
- 9月19日現在

寄贈いただきました

苫小牧地方法人会様より

『火山と地震の国に暮らす』
鎌田 浩毅/著 岩波書店
一般書 計22冊

苫小牧あすなろ会様より

『おかあさんどこ?』
ミスミ ヨシコ/作/絵・教育画劇
児童書 計76冊

苫小牧ハスカップ ライオンスクラブ様より

盲人図書室分室用
テーブル 1台



図書館員の読書日記

今回は
川の日記です

今年4月から中央図書館ではボランティアの苫小牧市朗読赤十字奉仕団と点訳サークル「この指とまれ」の協力を得て視覚障害者サービスの充実に取り組んでいます。

視覚障害者サービスのことを受ける側、提供する側、全体を理解できたのが『見えない・見えにくい人も「読める」図書館』（公共図書館で働く視覚障害者職員の会/編著 読書工房）です。公共図書館での視覚障害者サービスのいろいろ、2010年1月から著作権法が一部改正になり公共図書館で著作権者に許諾を得ることなく資料製作ができるようになったこと、さまざまな機器やソフトウェアのことなどが大変わかりやすく書かれています。『耳で読む読書の世界 音訳者とともに歩む』（二村晃/著 東方出版）では対面朗読に必要なことは単にアクセントや漢字の読み方だけではなく、幅広い知識も必要となる大変なサービスであることと朗読者のご苦労を知りました。

また、「日本点字図書館」創設者の本間一夫さんは北海道増毛町の出身で5歳で失明。子どもの頃の読み聞かせをしてもらった読書の喜びを、目の見えない人たちにも伝えたいと点字図書館を作るのに力を尽くした方です。

本間さんを知るには『指と耳で読む』（本間一夫/著岩波書店）児童書『愛の点字図書館長』（池田澄子/著 偕成社）がお薦めです。

さらに、目が見えないそして耳も聞こえない盲ろう者の大学教授福島智さんが「指点字」「指点字通訳」を使い、爆笑問題と討論するテレビ番組がありましたが、著書『海辺荘の宇宙人』『生きるって人とつながることだ!』（素朴社）にはユーモアにあふれたご苦労を感じさせない前向きな日常が綴られています。盲ろうの世界を「放映終了のテレビ画面でなおかつ音のない世界」で「人とのコミュニケーションを通して世界とかかわる」といっています。『ゆびさきの宇宙 福島智・盲ろうを生きて』（生井久美子/著岩波書店）も出版されています。

コミュニケーションを取る、情報を得る手段として点字図書、音訳図書、対面朗読、そして指点字の果たす役割の大きさを再認識した本を紹介してみました。

『見えない・見えにくい人も「読める」図書館』
公共図書館で働く視覚障害者職員の会/編著 読書工房



こどもの本のページ



「ありがとうのえほん」
フランソワーズ/さく
偕成社 Eア



「おおきくなったらなにになる？」
フランソワーズ/さく
偕成社 Eオ

今月のイチオシ作家

フランソワーズさん



「わたしの好きなもの」
フランソワーズ/さく
偕成社 Eワ

1897年、フランスに生まれる。「5歳で初めて画材を手にした時から絵を描き続け、紙がなければ壁にまで描いていた」と語るほど、絵を描くことを喜びとして生涯をすごした。ニューヨークヘラルドトリビューン紙賞、ニューヨークタイムズ紙年間絵本賞などを受賞。日本では、「まりーちゃんとひつじ」、「まりーちゃんとおおあめ」（岩波書店）、「ロバの子シュシュ」（徳間書店）などが紹介されている。

(「まりーちゃんとおまつり」奥付より)



「まりーちゃんとひつじ」
セニョボス フランソワーズ/文絵
岩波書店 Eマ



「ねずみのちよびちよびサーカスのスターになる」
フランソワーズ/さく
徳間書店 Eネ



「みみちゃんとヤギのビケット」
フランソワーズ/さく
徳間書店 Eミ



「ロバの子シュシュ」
フランソワーズ/さく
徳間書店 Eロ

あたらしい本

8～9月に届いた本から
ピックアップ



「ごはんのとも」 Eコ

荻田 澄子 / 文再話・絵
アリス館

おいしいごはんが炊けたなら、「ごはんのとも」は何にする？梅干し、ちくわ、納豆、たらこ、漬け物。「ごはんのとも」が大集合！でも、ひとつだけにせものが混じっていて...



「細川ガラシャ」 28ホ

加来 耕三 / 企画
ポプラ社

父・明智光秀が起こした本能寺の変によって、運命が一転した細川ガラシャ。夫を信じ、己を貫いた戦国女性の運命を、マンガでわかりやすく描く。解説、豆知識、年表なども収録。



「ハティのはてしない空」 93ハ

カービー・ラーソン / 作
鈴木出版

20世紀初頭、アメリカ北西部のモンタナで、両親のいない16歳の少女ハティは、おじの遺言を受け、たったひとり、土地の開拓に挑む。厳しい暮らしのなかの、あたたかな心のふれあいを描いた物語。



「本物みたいな虫のおりがみ図鑑」 75ハ

伊丹市昆虫館 / 編
大阪：創元社

ダンゴムシ、アカトンボ、カブトムシ...。本物らしさを追いもとめた虫のおりがみ作品を、わかりやすいおり図とともに紹介。虫の写真、解説などを収めた図鑑ページも収録。



よみきかせ会

会場 おはなしコーナー
定員 40名

苦小牧子どもの本の会 (第1・第3日曜日)

10月2日・10月16日
11月6日・11月20日
午後3時～3時30分

にじのはし (第2土曜日)

10月8日・11月12日
午後11時～11時30分
(第4土曜日)
10月22日・11月26日
午前11時～11時30分
午後2時～2時30分

ストーリーテリング おはなし会

会場 おはなしコーナー
定員 40名

おはなしオルゴール (第3土曜日)

10月15日・11月19日
午後2時～2時30分

かみしばい 紙芝居

会場 サンガーデン
定員 40名

かみしばいおじさん (第2土曜日)

10月8日・11月12日
午後2時～2時30分

ていきてき ぎょうじ 定期的な行事の おしらせ

めいさく じょうえいかい 名作アニメビデオ上映会

会場 2階講堂
定員 70名

飯野 和好(いいのかずよし)さんや五味太郎(ごみたらう)さん作品などのビデオを上映します。

(第2・第4日曜日)
10月8日・10月22日
11月12日・11月26日
午後2時30分～3時

郷土・参考資料室からのお知らせ

図書館条例制定60周年

今年は図書館条例が苫小牧で制定されて60年になります。
そこで今回は、苫小牧の図書館についてご紹介します。

苫小牧の図書館条例

昭和25(1950)年に制定された図書館法を受け、苫小牧市は、昭和26(1951)年3月29日に「苫小牧市立苫小牧図書館条例」を公布します。

この条例には市に図書館を設置すること、設置する場所、図書館が行う事業などが盛り込まれており、図書館法とともに、図書館活動を行ううえでの根拠となっています。この条例を受け、同年4月1日より現在の図書館の前身である、市立苫小牧図書館が発足しました。

昭和63(1988)年3月25日には全文改訂され、「苫小牧市立図書館条例」と名称を変えています。

苫小牧の図書館について

大正2(1913)年に苫小牧尋常高等小学校に保護者が設立されました。同会が大正5(1916)年に設置した御大礼記念文庫が苫小牧の図書館活動の始まりでした。建設費のほとんどは、当時王子製紙の下請業をしていた中村組、中村捨次郎氏の寄付によるものだったので、「中村文庫」とも呼ばれ、購入図書と有志からの寄贈など484冊をもって開館しました。

当初は児童教育を目的としていましたが、利用度の大きいことから将来は町に寄付して、一般住民も対象にした町立図書館にしようと計画されていました。しかし、大正10(1921)年のコイノボリ大火によって施設、書籍ともに灰になってしまいました。当時の町の経済力では再建するには至らず、その後も一部の有志による図書館設置運動が展開されましたが、実現するには至りませんでした。

戦後の教育改革の中で、昭和22(1947)年3月、全道の市町村に先がけ、旧軍人会館に苫小牧町公民館が設置されました。この時、公民館図書部が発足、献本運動も起こり、昭和24(1949)年10月から公民館集会室の一隅に書架を設置して一般閲覧を開始しました。これが本市の図書館の始まりです。

昭和25(1950)年に新図書館法が公布され、新しい図書館の在り方や基準等が明示されました。さらに道民事務部より図書館設置勧告を受けたため、苫小牧市は昭和26(1951)年3月、苫小牧市立苫小牧図書館条例を公布します。前年新築移転した市立病院の旧建物を図書館として再利用し、延面積186㎡、蔵書数4000冊、閲覧席80席の市立図書

館が誕生しました。

しかし、病院を一部改造した急造の図書館は非常に狭く、設備も不十分でした。そのため、市民の間で図書館新築運動が起こり、昭和29(1954)年10月完成予定の改築工事が計画されました。ところが、自治省・大蔵省との折衝で財政措置が不可能となり、この計画は棚上げされました。このため代替えの建物を確保することが緊急課題となり、昭和29(1954)年9月、旧職業安定所を臨時図書館として開設しました。その後様々な検討の結果、旭町に移転新築することが決まりました。第一期工事は昭和30(1955)年6月から始まり、翌年3月には新館に移転し、閲覧を開始しました。第二期工事は昭和34年8月から翌年5月に竣工し、ようやく新図書館が完成しました。

この図書館も年月の経過とともに老朽化が進み、また昭和50年代に入ってから市の人口増加に伴って施設も手狭となり、新たな図書館建設が必要になってきました。

昭和60(1985)年2月、市は新図書館建設の検討に入り、翌年10月から三ヵ年計画をもって建設に着手しました。そして昭和63(1988)年11月3日、文化公園にサンガーデンと併設して、現在の苫小牧市立中央図書館が開館しました。今年で23年を迎え、今日に至っています。(工藤)

参考資料

「図書館30年史」	請求記号HT016.2/ト
「とまこまい図書館要覧2010」	請求記号HT452.9/E/11
「苫小牧教育史」	請求記号HT372.1/ト
「苫小牧市史 追補編」	請求記号HT211.7/ト

これらの本は2階郷土資料室で見ることができます。

参考図書室・郷土資料室の ご利用に際して



かばん等の持ち込みはできません。手荷物をロッカーにお預けの上、筆記用具類のみをお持ちになってお入りください。

資料室には自習のための席はありません。自習する方は、2階電子情報サロン隣の『自習室』をご利用願います。

ふるさとの一片(49)

～郷土資料コーナーで見つけた～

勇払のアイヌ貝塚と開陽丸

- 佐々木譲が小説を書くきっかけになった弁天貝塚 -



文庫本(上)と単行本(右)の表紙



弁天貝塚と開陽丸

弁天貝塚は苫小牧市字弁天、勇払海岸にありました。昭和六〇年(一九八五)に地元の郷土史家、野土谷未松さんに発見され、翌年から三九年かけて苫小牧市埋蔵文化財調査センターが調査した幕末期から明治初期頃に築かれたアイヌの遺跡です。二百平米ほどの発掘区からはウバガイ、ホタテなどの多くの自然遺物以外にも鹿の骨や角で作られた骨角器、備前焼、信楽焼などの陶磁器、寛永通宝、箱館通宝などの古銭が続々と発見されました。発見時にはわからなくても、その後の調査で判明した珍しい遺物が多く出土しました。例えば、東印度会社の「コブラ瓶」や榎本軍が開陽丸にオランダから積載してきたハイネケンのビール瓶、アメリカ南北戦争(一八六一～一八六五)時の北軍将校軍服の金ボタン、これは直径二センチにも満たない見逃してもなら不思議のない真ちゅう製のボタンでした。おそらく武器商人が売りさばいた軍服が、明治元年(一八六八)から始まった戊辰戦争、そしてその最終決戦である翌年の箱館戦争まで古着としてリサイクルされ、流れ流れて勇払までたどりついたと推測されます。当時の北海道新聞苫小牧支社の記者がワシントン支局まで問い合わせ、そのボタンの製造会社、米コネチカット州、ウオーターベリー

市のスティービル社まで突き止めました。同社のボタンは開陽丸からも見つかったようです。つまり開陽丸の積荷と弁天貝塚出土品とは出所は同じと思われる。開陽丸は幕末に江戸幕府が所有していたオランダ製軍艦で艦長は榎本武揚、明治元年(一八六八)に江差沖で沈没し、その後、日本初の海底遺跡として登録されています。

新聞記事から小説へ

札幌在住の直木賞作家、佐々木譲は平成二年(一九九〇)一月四日の北海道新聞「幕末の勇払アイヌに オランダ製ビール瓶」の見出しではじまる弁天貝塚の記事をみて、想像力をかき立てられ「五稜郭残党伝」を上梓します。同書巻頭に「苫小牧・弁天貝塚から出土、開陽丸積荷、榎本軍が運ぶ、交流不す初の史料、容器として活用か」と当該記事を引用し、同時期の道内の遺跡の点と線をつなぎ書き上げます。この小説は箱館戦争終結前夜に旧幕府軍から逃れた男達の逃走を描いた冒険譚で、西部劇風の味わいです。映像をイメージしやすい作品でもあり、昨年八月には劇団ささほろが舞台「五稜郭残党伝」を函館市芸術ホールで上演し、好評でした。作者のプロク(佐々木譲の備忘録 <http://sasakiyuzo.blog.jp/11123928/>)には「あらためて思っつけねども、これはなんと、も過激なメッセージ性を持った作品だった。

若松孝一監督が映画化を企画した理由にも納得がゆく。舞台化に挑戦した劇団ささほろに敬服。そして「自分の原作ながら、主人公たちがアイヌの青年シルシケと会うあたりから涙が止まらない」と絶賛しています。

そもそも弁天貝塚は、当時、郷土文化研究会役員でもあった野土谷さんが勇払海岸を散策中に見つけたものです。散歩の時に拾った骨角器を苫小牧市埋蔵文化財調査センターに持って来たのが弁天貝塚調査の嚆矢ともいえます。古い資料の収集家でもある野土谷さんは、地元の古い新聞、苫小牧毎日新聞や苫小牧民報の前身である「南北海」などを、さらに「こまごまい港まつり」の貴重な一回目のポスターも図書館に寄贈され、郷土資料の質の向上に多大な貢献をされています。

もし野土谷さんが弁天貝塚を発見していなかったなら、貴重な遺物は目のみで見ることなく、この傑作小説が作られることも、名舞台も存在しなかったのです。そして、何よりもおもしろい事実は弁天貝塚第一発見者はこの小説はもとより作者の名前も知らなかった、つい最近までというところでしょうか。(天泉)

引用・参考資料

「弁天貝塚」 1 2 3
「五稜郭残党伝」 佐々木譲

行事のお知らせ

赤ちゃんとお楽しみ はじめての絵本のひろば

内容 赤ちゃんとお絵本の出会いを目的とし、赤ちゃんとお絵本の接し方の実践と指導、絵本の紹介、読書相談などを行う

日時 10月21日(金) 10:30~11:30

会場 中央図書館2階 講堂

定員 15組(キャンセル待ち3組まで)

対象 1歳児とその保護者

申込 10月6日(木)~12日(水)開館時間内
中央図書館カウンター または
電話 35-0511
定員を超えた場合は10月13日(木)に抽選(はじめての方優先)

連絡方法 申込みしていただいた全ての方へ
10月13日(木)に電話で連絡いたします。

秋の読書週間ビデオ上映会

内容 「ヨウカイとむらまつり」
「星の王子さま」 (計46分)
午前・午後ともに同じ作品を上演

日時 11月5日(土) (午前) 10:30~
(午後) 14:30~

会場 中央図書館2階 講堂

定員 70人(直接会場へ)

対象 幼児から小学生

おはなした場

内容 ペーパーサート「にんじんさんがあかいわけ」ほか
(協力:拓勇小学校読み聞かせサークル)

日時 11月3日(木) 13:30~14:30

会場 中央図書館2階 講堂

定員 100組(直接会場へ)

対象 幼児から小学生

移動図書館見学会

日時 10月29日(土)・30日(日)
13:00~15:00

場所 苫小牧市立中央図書館 玄関前

いつもは苫小牧市内を巡回している移動図書館車を中央図書館の玄関前で開放いたします。巡回している場所以外で見る機会はないので、ぜひご覧ください。
当日は移動図書館車内で、本を借りることも返すことも出来ますのでご利用ください。

寄付・寄贈ありがとうございました。(平成23年7月21日~7月20日)
個人 133件 4093冊 団体 40件 76冊

展示 今後の 予定	閲覧室入口 J・ピュリッツァー没後100年 報道特集 ~10月27日 名著復刻本 10月29日~11月24日	児童コーナー 日本発ファンタジー ~10月27日 世界の国のファンタジー 10月29日~11月24日
	一般書コーナー(新刊棚) アルバムづくり ~10月27日 職員が選ぶ 笑った本・泣けた本 10月29日~11月24日	一般書コーナー(検索機横) 新書が語る スポーツ ~10月27日 生き物大好き! 10月29日~11月24日
	エントランスホール 図書館条例制定60周年 10月1日~11月24日	

休館日の展示の公開はありません。
行事・催し・展示については、変更・中止になる場合がございます。

中央図書館カレンダー

黒塗り白字になっている日が休館日です。

2011年10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

10日 体育の日(開館します)

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

3日 文化の日(開館します)

23日 勤労感謝の日
(開館します)

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

23日 天皇誕生日

(開館します)